



SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

社会的孤立・孤独の予防と 多様な社会的ネットワークの構築

“社会的孤立・孤独”の何が問題なんだろう？
～解決すべき“社会的孤立・孤独”を、社会のあり方から一緒に変えていこう～
2022年3月29日（火）

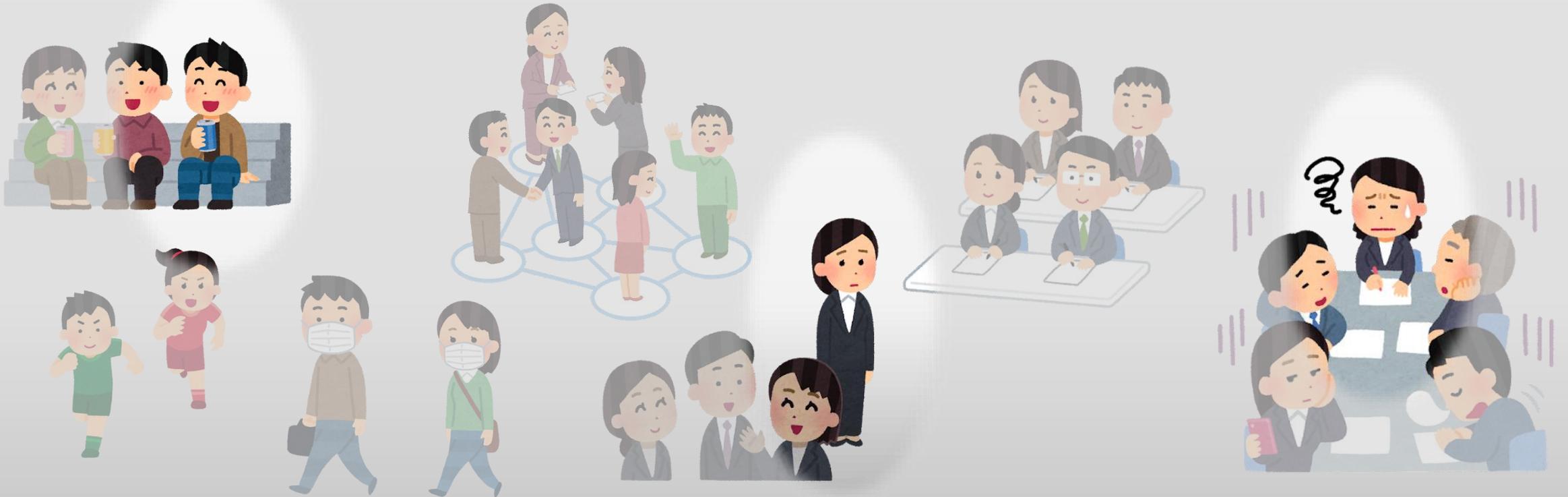
新生活に伴う孤独リスクの 可視化と一次予防

研究代表者：柳澤邦昭（神戸大学）
グループリーダー1：中井隆介（京都大学）
グループリーダー2：阿部修士（京都大学）
グループリーダー3：中島健一郎（広島大学）
グループリーダー4：早瀬 良（中部大学）

いつ、誰が、どこで
孤独になるのか？

Keyword①

孤独リスクの 可視化



使用するツール



調査



MRI



ウェアラブル端末



SNS

可視化（数値化）の利点

いつ、誰の孤独感が高まるのかを把握

- **新型コロナウイルス感染症**の影響
- **大学新入生**や**新社会人**を対象

集団レベルの孤独リスクを検証・分析

- 大学、企業、地域など、**どの集団**にしていると孤独に陥りやすいのか

孤独予防対策の評価

- 組織の孤独予防対策（e.g., 対面・オンライン形式の交流イベント、オリエンテーション）の**有効性**を検証

Keyword②

集団レベルの孤独リスク

孤独マッププロジェクト

社会人対象の調査
都道府県単位のデータ
時系列変化

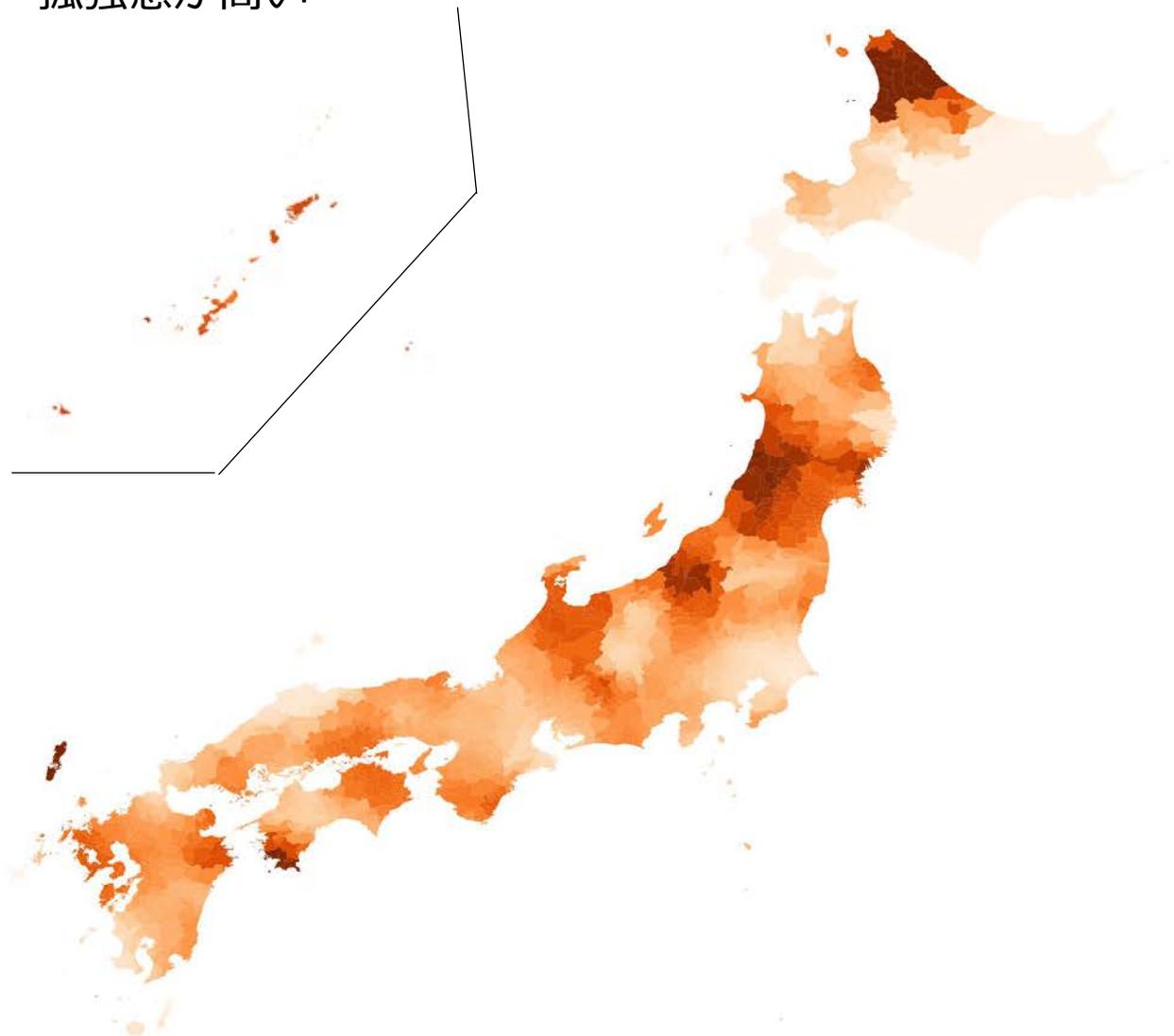


多大学参画プロジェクト

大学生対象の調査
50大学以上を対象
教員への調査も実施



※色の濃い場所が
孤独感が高い



時系列孤独マップ (約5000人のデータ)

2021年12月下旬測定

まん延防止等重点措置

2022年1月下旬測定

2022年2月下旬測定

まん防解除

2022年3月下旬測定中

※色の濃い場所が
孤独感が高い

時系列孤独マップ (約5000人のデータ)

2021年12月下旬測定

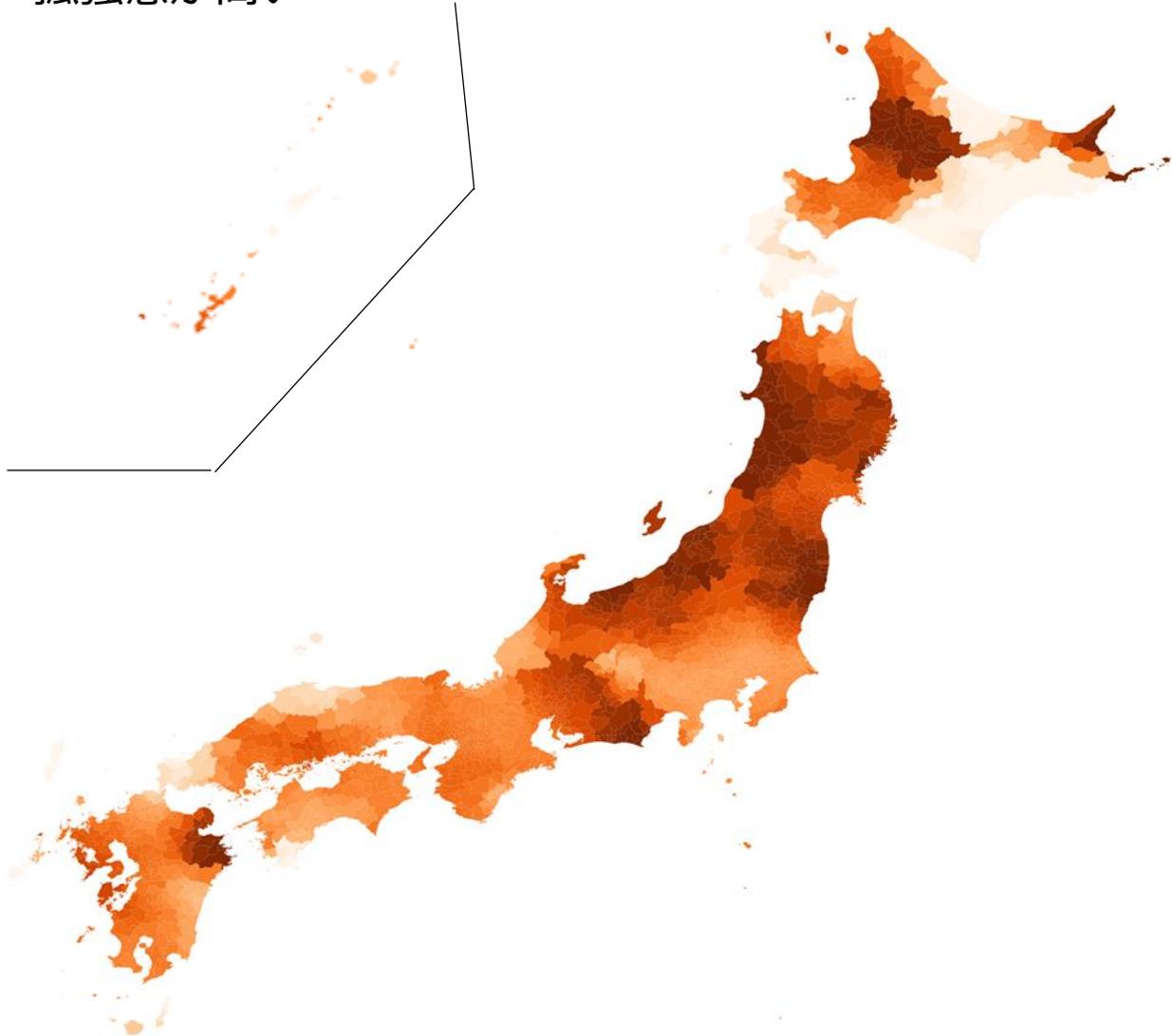
まん延防止等重点措置

2022年1月下旬測定

2022年2月下旬測定

まん防解除

2022年3月下旬測定中



組織の取り組み：一次予防対策

社会的交流の機会の評価

- 対面・オンライン形式の交流イベント
 - オリエンテーション（合宿・キャンプ）
- 横の関係、縦の関係の形成

孤独リスクの高い集団への導入

- 施策の実施
- 効果検証



対面での
グループワーク

本当に効果はあるのか？
他にどのような対策をしているのか？

オンライン
交流



「つながれない社会」から
「つないでいく社会」へ

プロジェクト問い合わせ先

柳澤邦昭（研究代表者）：kuniaki1031@bear.kobe-u.ac.jp